

六月、私の母と妹が新型コロナウイルスに感染した。そして、家族全員が濃厚接触者になって、父は単身赴任のため、私が朝昼晩のご飯を作らなければならなくなった。はじめのうちは楽しんでやっていたものの食料も少なくなりわたしができるメニューも、もうなくなった。近くに住む祖父も協力してご飯を運んでくれたがあと八日間もどうすればいいのかと途方に暮れた。そんな時、玄関前に大きなダンボールがどんと二つ置かれた。母に開いてみてと言われ、中を開けてみると、たくさんのレトルト食品と飲み物、そしてビニール袋や消毒液などの日用品、デザート缶詰まで入っていた。後で母に聞いてみると、それは、税金でコロナにかかった人に送られてくる救援物資だったそうだ。私は、小学校での学習で、税金はすごく大切なものと知っていたけれど、実際は、消費税などで払うことばかりで自分の生活に役立っているという実感はなかった。しかし今回のことで、税金にとっても助けられた。援助物資が届かなければ、私たち家族の十日間の自宅待機生活はどうなっていたのだろうと感じた。援助物資以外にも毎日の健康確認の電話をしてくださった保健所の方々への給与、コロナ治療のための薬、濃厚接触者のPCR検査など、この一件だけでも、たくさんの税金で賄われている。コロナの予防接種も無料で受けることができ、そのおかげで重症化する人が少ない。私の母や妹が軽症ですんだのも、そんな国の制度のおかげなのかもしれない。もし税金がなかったら、私たち家族は、コロナにかかった上にお金が大量にかかって大変だったことを知って、税金は本当に大切に困っている人を助けてくれる命綱みたいなものと身をもって実感した。

調べてみると税金は、健康や生活を守る社会保障費、道路や住居などを整備する公共事業費、教育や科学技術の研究の文教、科学振興費、国の防衛のための防衛費、海外援助などの経済協力費などに使われているそうだ。税金は日本のことだけではなく、海外の救助までしていて、とてもびっくりした。

わたしはこれまで、何も考えずに平和で豊かな暮らしを送っていて、税金によってこの生活が維持されているなどということは考えもしなかったが、わたしたちが今、普通に学校に通い、家族と幸せな生活を送ることができているのは税金のおかげだということを改めて考えることができた。これから、私は困っている人たちやみんなのため、そして私自身のためにもしっかりと働いて、きちんと税金を納める人になりたいと思う。私の払った税金が誰かを助け、誰かが払った税金が私を助けてくれているというのが税金の仕組みだ。実際に、助けられた私たち家族のこの経験を忘れずに毎日を過ごしたい。そして、この制度が平等に困っている人にしっかりと届いて、みんなが幸せになれる税金になってほしい。